

介護予防サービス計画について

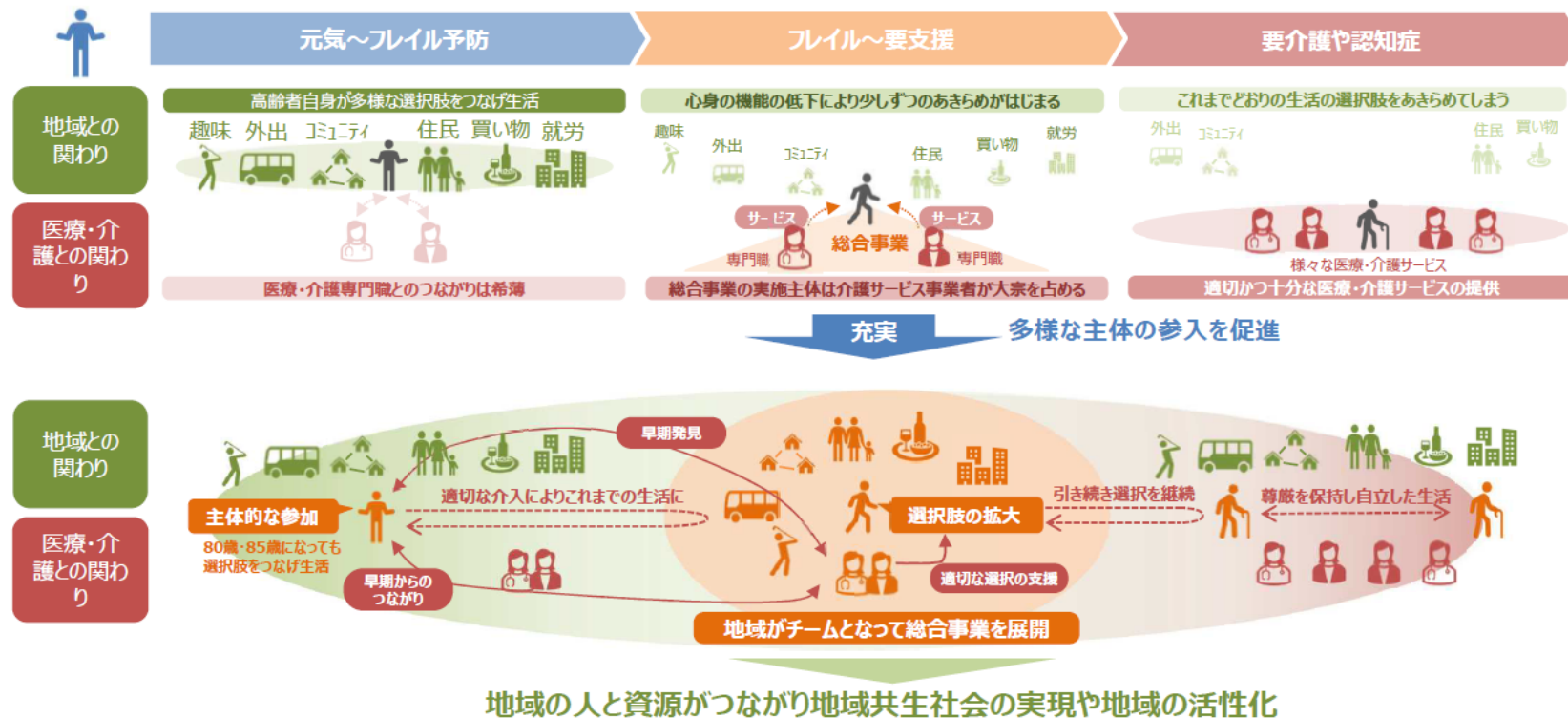
周南市 地域福祉課 包括ケア・地域保健担当

R6.8 新たな考え方が示されました!(厚労省・老健局通知)

介護予防・日常生活支援総合事業の充実に向けた検討会における議論の中間整理(概要)

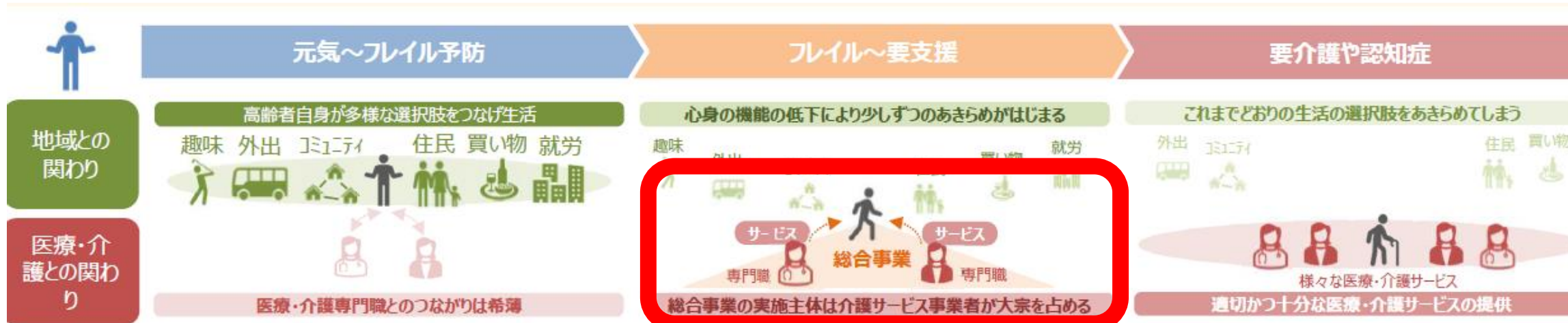
1 実施 要綱	2 ガイド ライン	3 ケアマネ ジスト	4 包括 センター
○	○	○	

- 高齢者の地域での生活は、医療・介護専門職との関わりのみならず、地域の住民や産業との関わりの中で成立するもの。また、高齢者自身も多様な主体の一員となり、地域社会は形作られている。
- 総合事業の充実とは、こうした地域のつながりの中で、地域住民の主体的な活動や地域の多様な主体の参入を促進し、医療・介護の専門職がそこに関わり合いながら、**高齢者自身が適切に活動を選択できる**ようにするものである。
- 総合事業の充実を通じ、高齢者が元気にうちから地域社会や医療・介護専門職とつながり、そのつながりのもとで社会活動を続け、介護が必要となっても必要な支援を受けながら、住民一人ひとりが自分らしく暮らし続けられる「地域共生社会」の実現を目指していく。



これからの支援に求められること

これまで



これから



フレイル～要支援高齢者へ

●適切な選択の支援をすること

介護予防サービス計画の確認

～必要性と今後の方向について～



介護予防サービス計画の確認がなぜ必要になったか？



理由 総合事業ガイドラインが改正 (R6.8)

- ・従前相当サービス利用者の状態像が明確になった
- ・従前相当サービスを利用する場合には、ケアプランに理由の記載が必要になった
(R7年度からは居宅介護支援事業所にも拡大)

介護予防サービス計画を確認するって？

多様なサービス・活動の例
(ガイドライン改正)

1 実施 要綱	2 ガイ ド ライ ン	3 ケア マネ ジ メント	4 包 括 セ ン タ
	○		

○実施要綱の改正内容について具体的なイメージができるよう、事業例について、「介護予防・日常生活支援総合事業のガイドラインについて」（平成27年6月5日老発0605第5号厚生労働省老健局長通知）の一部を改正。

従前相当サービス	選択 支援	多様なサービス・活動
<ul style="list-style-type: none"> ● 専門職による専門的な支援ニーズに総合的に応えるサービス ● 想定される対象者は、進行性疾患や病態が安定しない者など ● サービスの内容は総合的なものであるほか一定の制約あり 		<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民を含む地域の多様な主体により展開されるサービスや活動 ● 想定される対象者は、地域とのつながりの中で生活する要支援者等 ● サービスの内容は高齢者の視点に立って検討される

- ・進行性疾患、病態が安定しない人
- ・専門職による総合的な支援が必要な人
(→フレイルではない)

それ以外の人は…

生活由来の廃用症候群（要するにフレイル）の人へは、多様なサービス・活動で元気になるための支援を考えましょう。

週1~2回のデイサービスを利用できたら安心??



ご本人

職員の方がよくしてくれてうれしい
お風呂に安心して入れる
家族も心配するから言うとおりに...

週1回、出かける場ができて安心
専門職の目が入るから安心



家族

- 安心して、他の6日を何もしないで過ごす
- 本人のできることまで代わりにしてしまう
できることを奪ってしまい、本人の活動量は下がってしまうかも

使わないから衰える(廃用性症候群)という
状態で、さらに活動量が下がってしまうと...

週1~2回の介護サービスだけでは、むしろ悪化するかも...

適切な選択の支援により、利用者や地域の数か月後、数年後がかわってきます

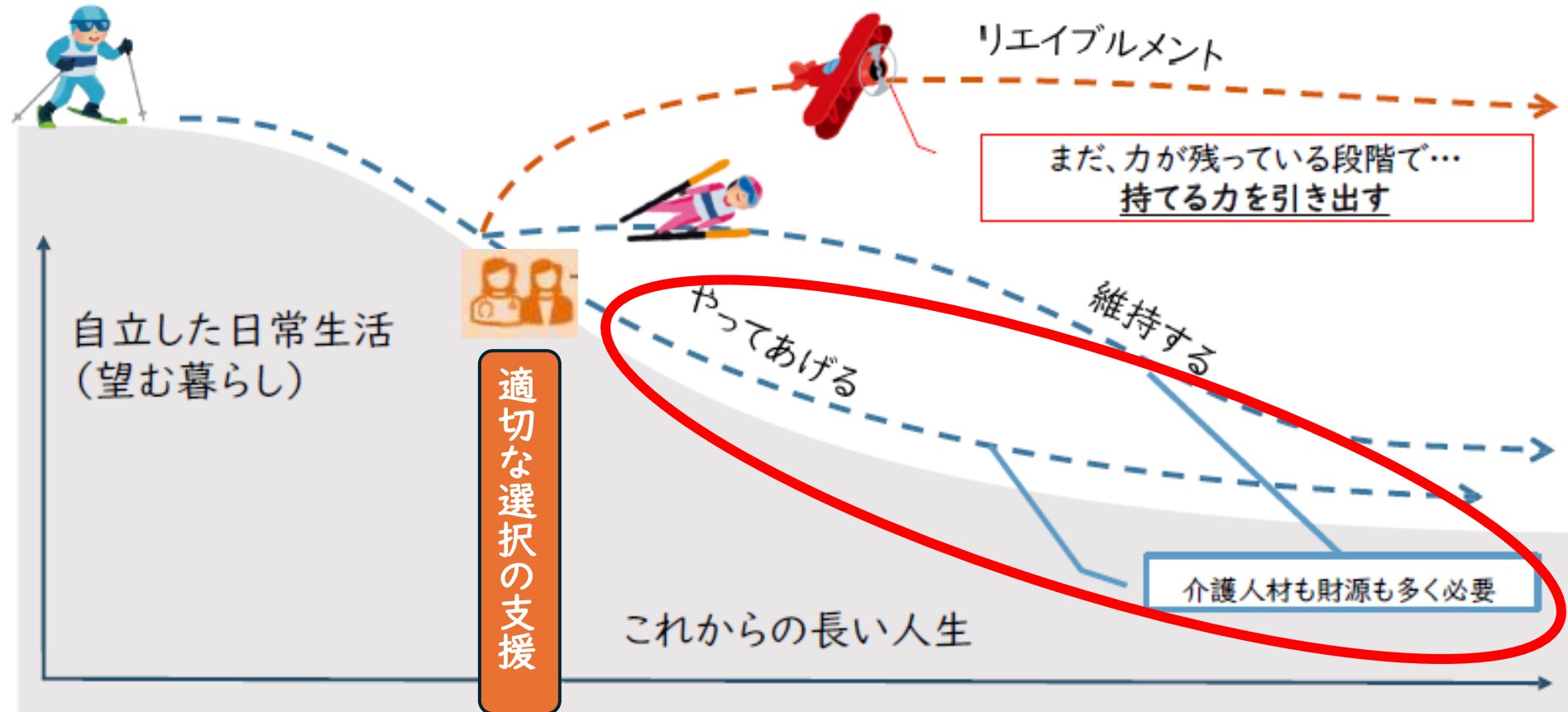
支援が必要な状態になっても、安心と希望をもち、できる限り

「望む暮らし」・「馴染みの暮らし」を送れるよう多様な主体・専門職で支える仕組み

キーワード(大事にしたいと考えた視点)は

リエイブルメント Re-ablement<再び自分でできるようにする>

ポイント



その他の手立て、地域資源につなげる・・・

▶ ケアマネジャー

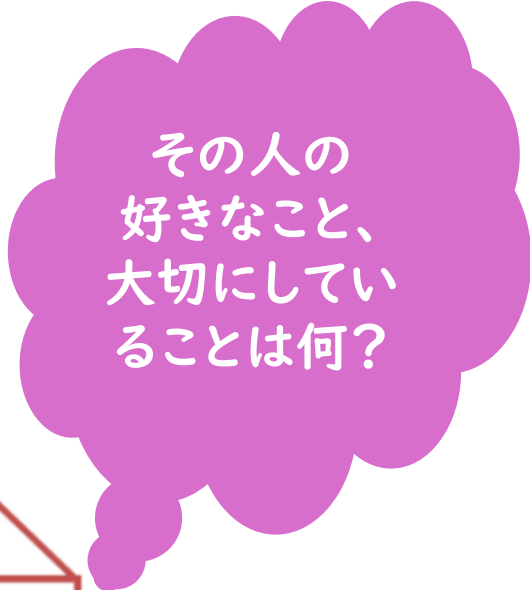
- ・ 近くにサロンや集まれる場もない
- ・ 新しい地域資源をつくると言われても・・・
- ・ 他の日の活動量をあげると言っても・・・

どうしたらいい・・・？



地域資源の種類「してあげる資源」と「本人の資源」

してあげる資源	本人の資源
担い手が高齢者向けのサービスとして実施するもの	意味づけすることで資源となる 使用や使用方法の指導が必要
公助・共助 <ul style="list-style-type: none">・バスタクシー助成制度・介護保険 など	場所 フードコート、商店先のベンチ 図書館、公園、移動販売車の周囲 手芸品販売店、美容院、喫茶店
互助・自助 <ul style="list-style-type: none">・サロン・介護予防教室・お助け隊・地域食堂・移動支援活動・保険外ヘルパー・スポーツジム・何でも屋・企業のCSR活動	道具 電動アシスト自転車、趣味の道具 便利な園芸用品、デジタル機器
	環境・役割 山、ペットや植木、学校、スポ少、 車の通行量、企業活動、困りごと
	人・目に見えないもの 家族・友人・隣人・友情・責任・ 挑戦心・過去の後悔
<ul style="list-style-type: none">・利用しない人にとっては資源ではない・実施主体がなければ成立しない。	<ul style="list-style-type: none">・アセスメントとアイデア次第でいくらでも見つかる



多様な主体(=民間企業)と使うというイメージより
地域にあるものすべてを資源に見立てる意識が必要で
そのためには的確な「アセスメント」が重要

「本人の視点で」地域にあるものや人を「資源化」する

場所



バラ園のような家

SCが地域を回っている最中にバラ園のような家を発見。のちに花が好きだという閉じこもり傾向の高齢者に散歩コースとして紹介。お宅の方にも散歩コースとして紹介したことを報告。

道具



中腰での移動が辛いために園芸をあきらめていたが、座ったまま移動できる椅子を購入したことで趣味活動が継続できた。

イベントではなく、日々のふつうの生活の中にある

これも移動支援



人

役割

アルツハイマーと診断された女性。SCは本が好きな女性のために図書館と連携。彼女でも取り組める仕事（役割）を創出してもらった。

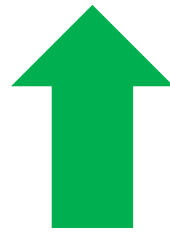
スーパーまで歩いて買物に行っていた80代の女性。転倒をきっかけに、買物に行くことが怖くなった。C型サービスをきっかけに歩行は可能に。しかし、まだ怖さは残っている。SCと一緒にスーパーまで歩いてくれる人を見つけ、一緒に歩くことでスーパーまで歩く自信を取り戻した。

介護予防サービス計画の確認を通して

利用者の改善を目指した介護予防ケアマネジメントの推進

1. 生活課題の解決の先にある具体的で達成可能な目標の設定
2. 参加や活動を増やすための多様な選択肢の提示
3. 従前相当サービスの自立支援に基づく効果的で適正な利用

本人の視点で



ポイント

サービスの妥当性、目標達成に向けての影響、
日常の活動・交流、目標の具体化